

苫小牧市福祉のまちづくり推進会議 議事録

■日 時：平成28年2月2日（火）15時30分から17時15分まで

■場 所：苫小牧市民活動センター3階会議室2

■出席者：

<委員>

栗山 昌樹（議長）

高橋 信清

浦本 隆夫

川村 栄

小林 裕子

江尾 清

曾田 昇

佐々木 匠

伴辺 久子

<欠席者>

渡辺 健治

杉浦 佳子

荻野 雅治

登 光敏

林 英二

（敬称略）

<事務局>

小林主査

三澤主事

佐柄主事

■議 事：

- （1）平成28年度バリアフリー化事業について
- （2）平成27年度福祉のまちづくり表彰について
- （3）福祉のまちづくり推進事業について
- （4）その他

■議事要旨：次項以降に掲載

■議事（１） 平成２８年度バリアフリー化事業について

○平成２８年度バリアフリー化事業について次のように報告しました。

【白鳥王子アイスアリーナトイレ洋式化工事】

- ・整備箇所（予定）：１階和式トイレの洋式化工事、
１階・２階の身障者用トイレの温水洗浄装置設置工事
- ・洋式化及び温水洗浄装置設置については、過去のバリアフリー化事業で洋式化工事を実施したものと同等の規格で整備予定です。
- ・工期は春～夏を予定しております。施設側及び担当課であるスポーツ推進室と協議の上、実施の詳細について確定します。

【市民活動センター「視覚障がい者歩行誘導ソフトマット 歩導くん」整備】

- ・平成２８年１月１４日（木）から市民活動センター１階にデモ設置をしております。
- ・整備箇所：１階受付前～エレベーター、１階トイレ前までの総延長およそ１３ｍ
- ・２月中は設置予定です。３月以降については施設側・業者と協議の上、撤去時期及び今後の本整備について検討したいと思います。
- ・会議後に「歩導くん」を体験し、委員の皆様からの御感想・御意見等をいただきたいと思っております。

質問・意見等（※事務局回答には後日詳細を確認した内容を含んでいます。）

■身障者用トイレについて。温水洗浄装置の操作盤が便座前にあると、車いす使用者はぶつかってしまう。操作盤はできれば壁設置にしてほしい。《浦本委員》

《事務局》配線の関係等確認の必要がありますが担当課及び施設側に伝え、予算内であれば壁設置を検討したいと思います。今回整備できなかった場合も、今後の整備の参考にさせていただきます。

■以前に「歩導くん」を試したことがあるが、他の床との差があまり分らなかった。当事者に試してもらう必要があると思うので、後日団体のメンバーで体験しようと思う。《江尾委員》

《事務局》御意見ありがとうございます。団体の皆様より御意見等ありましたら、事務局まで御連絡いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

■「歩導くん」の導入実績について。《伴辺委員》

《事務局》平成２７年に函館市に建設されました函館アリーナでは、「歩導くん neo（旧タイプのマット）」を敷設、道外では東京都葛飾区にあります「かつしかシンフォニーヒルズ（別館）」での敷設など、全国的に導入が始まっております。他にも、銀行のＡＴＭコーナーや市役所内などでも導入実績があり、あらゆるシーンで使用されるようになってきているようです。

また、「歩導くん」の敷設は両面テープにより貼り付けられるため、卒業式や大会・イベントなどのシーンで、土足で入れるように仮設誘導路としての活用例もあるようです。我々の身近なものでいうと、選挙の投票所など、点字ブロックをしっかりと敷設する訳にはいかない場面などでブルーシートを敷き、その上に誘導マットを敷設するという使い方も可能ではないでしょうか。

従来の点字ブロックと「歩導くん」では気づく方法が異なります。「歩導くん」は白状で触って確認することが前提なので、その説明が必要になると思われます。そういった部分も当事者だけでなく把握・浸透させていき、今回の誘導マットについて共通認識を持てるかというところが導入のポイントとなっていると考えます。

《議長》実際に「歩導くん」を導入している施設に聞いてみるのも良いと思います。

■視覚障がい者にとって、トイレの操作ボタンの位置が統一されるのが望ましい。自動なら良いのですが、施設ごとにバラバラだと操作を間違えてしまう。《江尾委員》
《事務局》現在の公共施設の整備状況については、トイレの操作ボタンの位置まで把握できていないのが現状です。全施設の統一となると、時間がかかるとは思いますが、今後もバリアフリー化事業を進めていきますので、検討事項とさせていただきます。

■議事（２） 平成２７年度福祉のまちづくり表彰について

○平成２７年度福祉のまちづくり表彰団体について、下記のとおり報告しました。

団体名	主な活動
苫小牧市立病院ボランティア「エールの会」様	<ul style="list-style-type: none"> ・結成：平成１３（２００１）年１０月 ・活動人数：約２５名 ・活動内容（苫小牧市立病院にて） 病院内の施設案内や介助、院内外の美化活動、患者への手芸品プレゼント、小児科病棟での絵本読み聞かせ等 ⇒地域に根ざした『市民に愛される病院づくり』に貢献しています
苫小牧健康友の会 外来ボランティアサークルたんぽぽ様	<ul style="list-style-type: none"> ・結成：平成１６（２００４）年４月 ・活動人数：約８名 ・活動内容（勤医協苫小牧病院にて） 来院者の施設案内や介助、傾聴、草取りや花壇整備、美化活動、患者への手芸品プレゼント等 ⇒患者さんや病院内の癒し空間づくりに貢献しています

○社会福祉表彰式は、平成２８年２月４日（木）に行われました。

○表彰内容については、広報とまこまいにも掲載予定です。

質問・意見等なし

■議事（３） 福祉のまちづくり推進事業について

- 「福祉のまちづくり」をテーマに、委員の皆様ブレインストーミングを実践していただいております、今回会議では第４回となります。
- これまでのブレインストーミングの流れについて確認しました。
 - 【第１回—平成２７年３月１７日開催】

「現状」について、Ａ班、Ｂ班に分かれてふせん紙に意見を書き、模造紙に貼り付ける作業をしていただきました。
 - 【第２回—平成２７年８月６日開催】

「課題」を把握するため、収集した意見について内容の近いもの同士を分類し、グループ化していただきました。
 - 【第３回—平成２７年１１月１８日開催】

前回までの意見を集約し、事務局が分類したものについて発表し、問題解決に向けてどう施策を結び付けていくかを話し合いました。
- 苫小牧市の福祉のまちづくり条例、福祉のまちづくり推進会議の役割について確認しました。
- 今回会議では、事務局で分類・図解化したものの中から、グループごとにテーマを決めて話し合ってもらいました。

グループワーク（発表内容）

■Ａ班 討論テーマ：「自分たちででかけたい」「市民みんなが障壁のあることを理解する」

- 現 状：障がいを持つ人たちだけででかけるには、交通網の整備が不足している。
- 課 題：周囲の理解を深めることで、障がいを持つ人たちはもっと生活しやすくなるはず。

【問題解決に向けたそれぞれの役割】

- ◎行 政：学校授業の中で、もっと障がいに関する教育を強化していく。
- ◎事業所：バス時刻表でノンステップバスについて分かりやすい表示をし、周知していく。台数を増やす。
：車いす用パーキングを利用したい人が快適に利用できるように、とりきめを強化する。
- ◎市 民：理解を深める場を増やしていく。

質問・意見等

《事務局》バスについて。携帯電話やパソコンでインターネットを利用して情報を得られる人が増えていきますので、事業所としてはそういった情報発信の配慮もできるのではないのでしょうか。

■ B班 討論テーマ：「見守り、育てる地域づくり」

○現 状：町内会活動をもっと活発にすべき。高齢化が目立つので若い人に積極的に参加してほしい。

○課 題：町内会へ加入することによる若い人へのメリットを増やす。

[問題解決に向けたそれぞれの役割]

○行 政：転入者が市役所で手続きすると、冊子等説明資料をもらえるが、その際に町内会の参加を促すような案内を入れる。賃貸アパートで、大家さんから促すようにする 等

○事業所：積極的に町内会活動・行事に参加していただく。

○市 民：災害時などにおいて地域のつながりは非常に大事になる。普段から町内会活動、近所付き合いを大事にしていく。

質問・意見等

■防災の面、互助共助の面で町内会活動がどのようにするかという研究も多くされている。市町村がやっていることを町内会で実施している自治体もあるが、現在の苫小牧市は、行政のバックアップがまだ強く見られる。《栗山議長》

■アパート・マンションが増えているが、2～3年でそこを出て行ってしまう人も少なくないため、町内会への愛着が根付いていかない。大家さんが家賃と一緒に町内会費を徴収するなどの方法も検討し、管理者側からのアプローチを強化していくべき。行政側からの指導があっても良いのではないだろうか。《高橋委員》

《事務局》若い人が町内会にどう参加していくか問題になっている部分です。町内会館で子ども向けのイベントを開催するなどして、子育て世代が集えるような場をつくることで、若い人の町内会加入を促す方法も考えられます。若い人が町内会に加入しないということは、地域のつながりの必要性を感じていないということかもしれません。このような集いの場をつくり、参加していくことで地域のつながりを感じていき、町内会の必要性を感じていくことにつながると思います。そういった相互の取組も進めていければと思います。

苦小牧市としての取組《事務局より》

○ブレインストーミングで挙げていただいた現状の課題について、「苦小牧市福祉のまちづくり推進計画」及び「苦小牧市障がい者計画」の体系に沿って取組状況を発表しました。

①権利擁護

<学校で福祉の学習を。たとえば車椅子、高齢者の模擬体験>

<学校教育の中で心のバリアフリーについての授業を増やしてほしい>

- ・特別支援学級と通常学級の「交流及び共同学習」
- ・認可保育園の保護者会で障がい児に対する理解を深めた

<沼ノ端駅にある駐輪場の自転車があふれて非常にだらしく感じることがある。>

- ・放置自転車の撤去
- ・駐輪場ルールの徹底、啓発指導

②情報・コミュニケーション支援

<視覚的にわかりやすい表示をつくる>

- ・苦小牧市公式ホームページのユニバーサルデザイン化

③生活環境の安全・安心

<歩行者が主役の道づくり>

- ・幹線道路等の新設、整備において、点字ブロックの設置や段差解消

<冬でも安全に歩ける>

- ・除排雪の充実

<自分たちででかけたい>

- ・福祉ハイヤー助成
- ・重度障害者タクシー助成
- ・通院交通費助成

<福祉の声が行き届く施設整備>

- ・公共施設のバリアフリー化推進
- ・多目的トイレの設置
- ・適合証の交付施設の増

《ブレインストーミングまとめ—事務局》

○過去の会議での御意見及び今回のブレインストーミングでの皆さんの意見交換を参考にさせていただき、事務局だけで実情を把握するのではなく、必要に応じて関係部署や関係機関へ報告していきたいと思っております。

○今回問題視された点や苦小牧市の福祉のまちづくり推進において重要となる部分について、すべてを施策に反映できるものではありませんが、まずは現状・課題について理解を深めていき、それから事務局としてどのような解決策が挙げられるか、また、どのように関係部署や関係機関と連携をとっていけるかについて考えていき、福祉施策・行政施策への反映を進めてまいりたいと思っております。

質問・意見等なし

■その他の取組について

～※以下については、後日詳細を確認した内容を含んでいます～

《苫小牧市での町内会加入促進について》

○市内の町内会加入率の低下問題について、苫小牧市では、現在以下のような取組を行っています。(担当：市民生活部市民生活課)

- ・ 市民へ →住民課での転入手続の際、町内会加入のPR文書を配布
→住民課窓口前の動画広告で、町内会加入のPR動画を配信 等
- ・ 共同住宅建築主へ →入居者に対して、町内会加入のPR文書を配布依頼 等

○町内会では、自分たちの住んでいる地域を快適で住み良くするため、また、だれもが安全・安心に暮らせる街づくりの実現を目指して地域住民の親睦を図りながら様々な活動を行っています。今後も更なる町内会加入促進のために、市と町内会が協力して加入促進の方法について検討を続けていきます。

《ノンステップバスについて》

現在苫小牧市内では、ノンステップバスについてバス時刻表への表示やインターネット等による情報配信等はされていないとのことです。市内のノンステップバスの整備台数は3～4台で、走る路線や時刻については定まっていないようです。今後の周知方法やノンステップバスの増台については検討されるとのことです。(道南バス株式会社苫小牧営業所より)

《「歩導くん」導入施設での使用の様子について》

【函館アリーナ（函館市）】

○メインアリーナの入口では、「ピンポ～ン、函館アリーナ南側入口はこちらです。点字ブロックの後、誘導マットをお進みください。受付は右手側にあります」という盲導鈴によるアナウンスが流れます。(中略)また、入口から受付までのみならず、メインアリーナとサブアリーナのすべてのフロアに「歩導くん」が敷かれています。
(平成27年8月20日発行/道視連新聞より抜粋)

○視覚障がいをお持ちの方の御意見を取り入れ、行政との連携を通じてユニバーサルデザインの施設整備を目指し、「歩導くん」導入に至ったとのことです。利用者の中には、定期的にトレーニングに来る障がい者の方もおり、使用感について御好評をいただいているとのことです。(施設職員より)

《事務局》盲導鈴と誘導マットを併用することで、視覚障がいをお持ちの方が初めて訪れた際にもマットの存在をお知らせすることができ、通行しやすくなっていると思われます。今後の導入方法について参考にしていきたいと思えます。

■議事（４） その他

○「歩導くん」を使用しての感想・意見等（各委員より）

- ・視覚障がいを持つ人にとっては他の床との差がなく分かりづらいため、なんらかの説明が必要。もしくは、市内で導入施設を増やすことで誘導マットに慣れていくことも考えたほうが良い。
- ・視覚障がいを持つ人の中でも、白杖を使用した人がメインターゲットになる。「だれでも」使用できる誘導マットとしては、まだ検討が必要と考えられる。
- ・他の床との段差が少ないため、車いす等の車輪がひっかかることなく、違和感なく通過できる。
- ・当事者の声をもっと取り入れるために、実際に使っていただいて意見を聞くべき。

《事務局》平成28年3月中はデモ設置している予定なので、今後使用している様子を参考にし、今回いただいた御意見等と合わせて本整備について慎重に検討していきます。

以上